資料１

2027年国際園芸博覧会のこれまでの取組について

令和６年８月２日（金）
第３回　2027年国際園芸博覧会関係府省庁連絡会議

EXPO 2027 YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会の概要

名称

日本語：２０２７年国際園芸博覧会

英　語：International Horticultural Expo 2027, Yokohama, Japan

位置付け

- **最上位**の国際園芸博覧会（A1）
- 国際博覧会に関する**条約に基づく認定博覧会**

※ A1は、我が国では1990年の国際花と緑の博覧会（大阪市）のみ

テーマ

幸せを創る明日の風景

～Scenery of the Future for Happiness～

基本事項

開催場所：**神奈川県横浜市**（旧上瀬谷通信施設の一部）

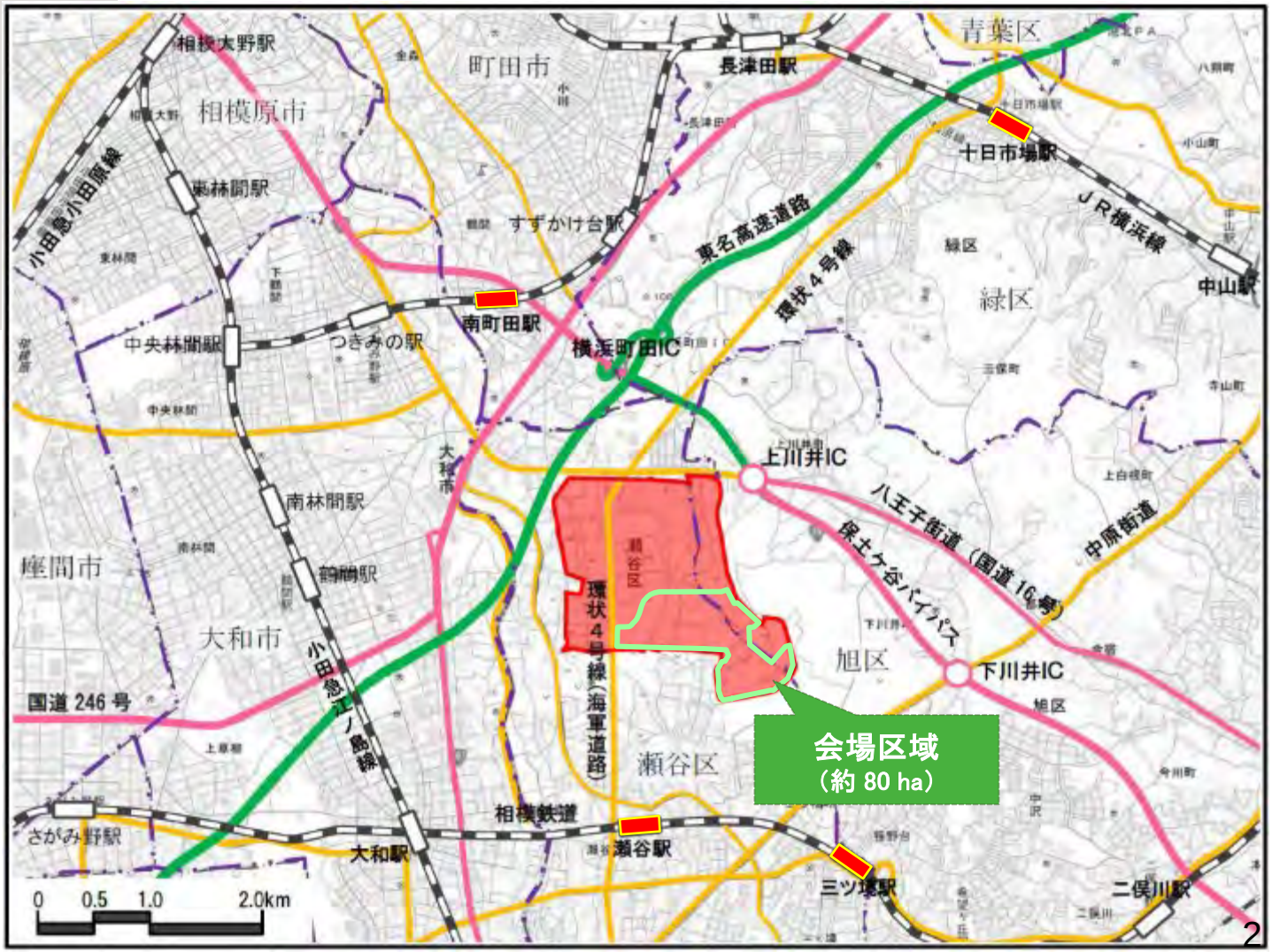
開催期間：2027年3月19日～9月26日（192日間）

参加者数：**1,500万人**（有料来場者数1,000万人以上）

開催者　：公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会（会長：十倉雅和（経団連会長））

会場位置図

旧上瀬谷通信施設（横浜市旭区・瀬谷区）位置図



凡例

- 旧上瀬谷通信施設
- 博覧会会場区域
- 高速道路、自動車専用道
- 国道
- 主要市道
- シャトルバス発着駅

GREEN×EXPO 2027

背景 プラネタリー・バウンダリー（地球の限界）
気候変動、生物多様性の喪失、大気汚染など

テーマ 幸せを創る明日の風景
Scenery of the Future for Happiness

実現手法 自然・人・社会が共に持続するための最適解 ＝ 自然を活用した解決策【Nature-based Solutions（NbS）】

GREEN×EXPO 2027
（グリーン エクスポ ニーゼロニーナナ）

「植物」、「花」、「緑」を総称する言葉であり、「自然」、「環境にやさしい」という意味を持つ「GREEN」、国際的に共通する課題の解決に寄与する国際博覧会「EXPO」という語を掛け合わせることで、SDGsやGX（グリーントランスフォーメーション）の実現に貢献する博覧会として、これからの自然と人、社会の持続可能性を追求し、世界と共有する場であることを表現。

本博覧会で着目するGREEN		産業活動
自然が有する回復力 環境保全、持続可能性に貢献する	×	地球環境・生態系と共生するライフスタイル創造
自然資本と技術を活かした社会課題の解決 グリーントランスフォーメーションとSDGsを実現する	×	業界・企業のイノベーション新産業創生
植物・自然がもたらす豊かな感性 心身のバランスを整え、人の心を和ませ疲れを癒す	×	グリーン社会実現に向けた投資・支援（CSR/CSV/ESG）

▼

市民や企業の意識・行動におけるNbSの主流化

2027年は、「SDGs」や「30by30」の目標年の３年前。 さらにはネイチャーポジティブ、循環経済への移行、2050年ネットゼロなど、グリーントランスフォーメーション（GX）やグリーン社会の実現に貢献するため、2030年以降を見据えた多様な主体の新たな取組を共有することが重要。

会場イメージ

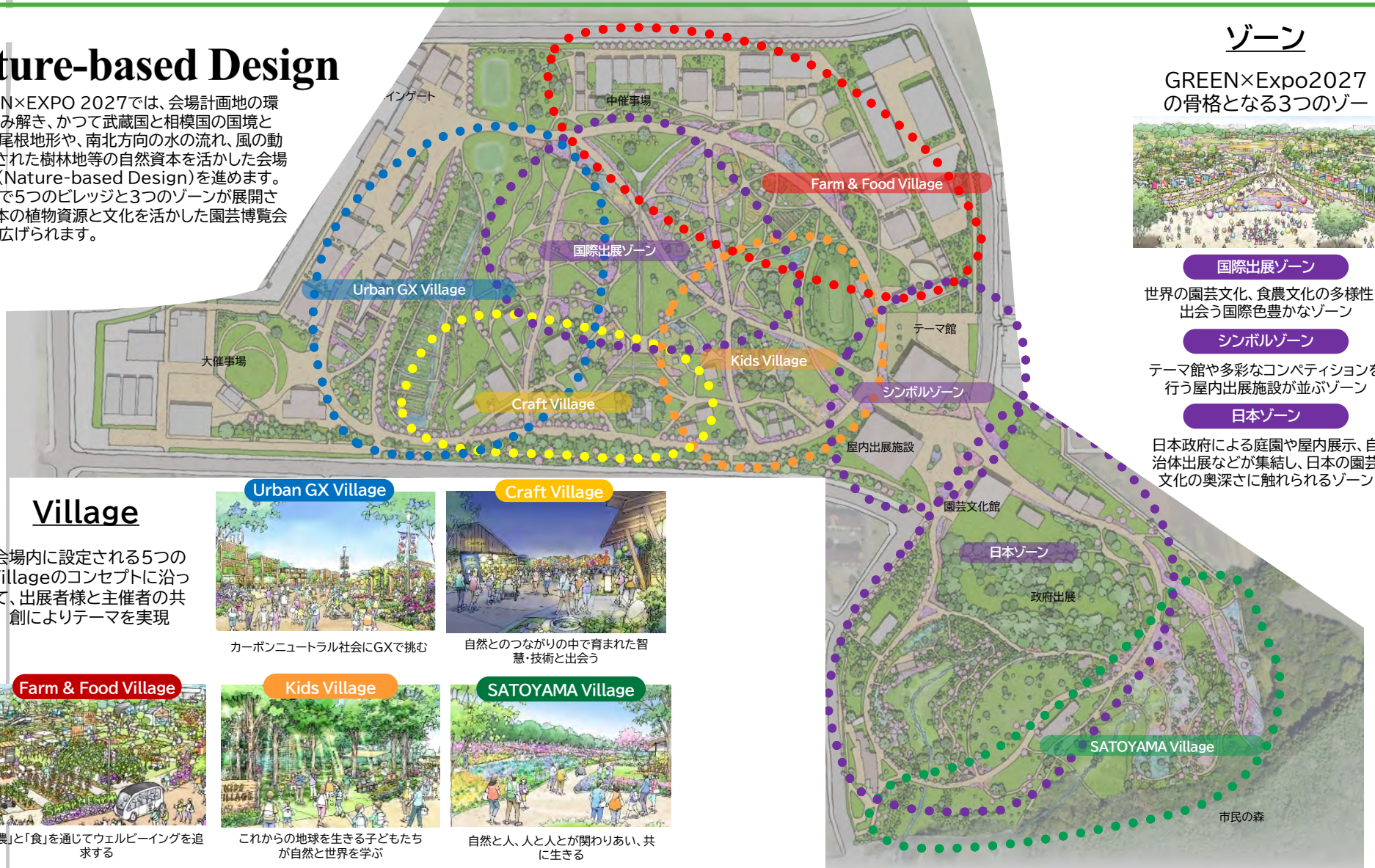
- 計画地の**自然環境が有する多様な機能を効果的に取り入れた会場**を整備。
- **多様な主体同士のつながり**を生み出し、**地域・国内外の課題解決**や**新たな産業の創出**につなげることが可能な空間を効果的に配置。

GREEN×EXPO 2027 会場計画図

- 尾根地形や水の流れ、風の動き、残された樹林等の自然資本を活かした会場づくり（Nature-based Design）。
- ５つのVillage（テーマ共創事業）と３つのゾーンを展開し、日本の植物資源と文化を活かした博覧会とする。

Nature-based Design

GREEN×EXPO 2027では、会場計画地の環境を読み解き、かつて武蔵国と相模国の国境となった尾根地形や、南北方向の水の流れ、風の動き、残された樹林地等の自然資本を活かした会場づくり（Nature-based Design）を進めます。この上で5つのビレッジと3つのゾーンが展開され、日本の植物資源と文化を活かした園芸博覧会が繰り広げられます。



ゾーン

GREEN×Expo2027
の骨格となる3つのゾー

国際出展ゾーン

世界の園芸文化、食農文化の多様性に出会う国際色豊かなゾーン

シンボルゾーン

テーマ館や多彩なコンペティションを行う屋内出展施設が並ぶゾーン

日本ゾーン

日本政府による庭園や屋内展示、自治体出展などが集結し、日本の園芸文化の奥深さに触れられるゾーン

Village

会場内に設定される5つのVillageのコンセプトに沿って、出展者様と主催者の共創によりテーマを実現

Urban GX Village

カーボンニュートラル社会にGXで挑む

Craft Village

自然とのつながりの中で育まれた智慧・技術と出会う

Farm & Food Village

「農」と「食」を通じてウェルビーイングを追求する

Kids Village

これからの地球を生きる子どもたちが自然と世界を学ぶ

SATOYAMA Village

自然と人、人と人とが関わりあい、共に生きる

これまでの主な取組

2019年度	９月	開催に必要となるAIPH（国際園芸家協会）の承認を取得
2021年度	６月	開催に必要となるBIE（博覧会国際事務局）への認定申請手続きを開始 **【閣議了解】**
	３月	「令和九年に開催される国際園芸博覧会の準備及び運営のために必要な特別措置に関する法律」（**園芸博法**）の公布・施行
2022年度	４月	園芸博法に基づく博覧会協会（開催者）の指定
	６月	BIEに対する認定申請 【閣議決定】
	８月	**国際園芸博覧会担当大臣**として**国土交通大臣が指定**
	11月	BIE総会における認定申請の承認（**BIE認定**）
	１月	博覧会協会による基本計画の公表
	２月	1500日前イベント（推進体制、正式略称GREEN×EXPO 2027の発表）
2023年度	4月	**関係閣僚会議**の設置・開催（公式ロゴマークの発表）
	5月	関係府省庁連絡会議、国土交通省推進本部の設置・開催
	8月	**関係閣僚会議**の開催（**基本方針、関連事業計画の決定**）
	9月	公式アンバサダー就任（俳優：芦田愛菜さん）発表
	3月	3年前イベント（公式マスコットキャラクター発表）
2024年度	4月	「二千二十七年国際園芸博覧会政府委員の設置に関する臨時措置法」に基づく政府委員の任命
	6月	1000日前イベント（公式マスコットキャラクターの名前「トゥンクトゥンク」発表）

2027年国際園芸博覧会関係閣僚会議の概要

2027年国際園芸博覧会の円滑な準備及び運営に資するため、これに係る重要な問題であって国の施策に関連する事項を協議するため、関係閣僚会議を設置（令和５年４月28日）

開催概要

➢第１回：令和５年４月２８日
➢第２回：令和５年８月３１日

➢会議の構成

議　長	内閣官房長官
副議長	国際園芸博覧会担当大臣
構成員	国際博覧会担当大臣
	内閣府特命担当大臣（防災）
	国家公安委員会委員長
	復興大臣
	総務大臣
	法務大臣
	外務大臣
	財務大臣
	文部科学大臣
	厚生労働大臣
	農林水産大臣
	経済産業大臣
	国土交通大臣
	環境大臣
	防衛大臣

第１回（令和５年4月28日）

◆ 関係閣僚会議設置にあたり、岸田総理に出席いただき、2027年国際園芸博覧会のシンボルとなる公式ロゴマークを公表。
◆ 本博覧会の成功に向け、関係閣僚で一丸となるとともに、オールジャパンで連携し、開催準備に万全を期すこと。その取組を具体化するため、政府として取り組むべき対策の「**基本方針**」を取りまとめるよう指示。

第２回（令和5年8月31日）

◆ 「2027 年国際園芸博覧会（GREEN ×EXPO 2027）の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針」を決定。
◆ 「2027 年国際 園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）関連事業計画」を決定。

Ⅲ.GREEN×EXPO 2027の円滑な準備及び運営

「基本方針」<概要版>（抜粋）
令和５年８月関係閣僚会議決定

- ネットゼロや循環経済の観点から、スギ材などの国産材やCLTの活用を検討するとともに、展示用植物の検疫体制を強化するなど、着実な会場整備等を推進
- 主要アクセスルートへの誘導や機能強化の推進により、会場への円滑なアクセスを確保
- 博覧会の円滑な準備を促進し、開催の効果を高めるため、関連する公共事業を推進
- テロ、サイバー攻撃、災害、感染症、暑熱及び食中毒などの対策を図るため、適切なセキュリティや安全・安心を確保
- CIQ（税関・出入国管理・検疫）体制の強化、自動運転やマイナンバーカードの活用検討、ユニバーサルデザインの推進など、円滑な運営に必要な取組を推進
- 参加国等に対して査証発給及び社会保障制度に関する特別措置等の必要な措置を講ずるほか、関係機関等により各国・国際機関に対する参加招請活動を展開
- ロゴマークや動画等のコンテンツの積極的な活用、寄附金付郵便葉書・郵便切手の発行、記念自動車ナンバープレートの発行など、全国的な機運醸成や資金の調達の観点からの取組を実施
- グリーンツーリズム等のインバウンド観光などのみどりのコンセプトに合致する集客性の高い施策との連携
- 大阪・関西万博との連携により、大阪・関西万博のノウハウやレガシーを最大限に活用
- 花・緑・食・農などをテーマにした行事を含め、国際的な大規模行事の機会を活用した情報発信を実施

【海外】各国への参加招請の進捗状況

- 令和６年２月27日・29日に、本博覧会の開催概要や出展に係る情報を共有し、各国における出展参加の前向きな検討を促進することを目的に、在京大使館向け説明会を開催。（47か国から57名が参加）
- 説明会において、各国が出展する際のプロット図及び参加ガイドラインを公表。
- 在京大使館向け説明会の開催に先立ち、同年２月19日に、各国在外公館担当者向けオンライン説明会を開催。
- 同年３月21日には、本博覧会へのさらなる出展参加意欲の促進を図るため、博覧会会場及び開催都市横浜市の花の名所である山下公園の現地視察会を実施。（44か国から49名が参加）

在京大使館向け説明会

■開催日	2月27日	2月29日
■場所	イイノホール＆カンファレンスセンター	日比谷国際ビルコンファレンススクエア
■参加国	29か国	18か国
■参加人数	36人	21人

現地視察会

■開催日	3月21日
■場所	博覧会会場・山下公園
■参加国	44か国
■参加人数	49人

【海外】関係閣僚会合や在外公館等におけるPRについて

- G7サミット及び全国各地で開催された関係閣僚会合(都市大臣、農業大臣、気候・エネルギー・環境大臣、外務大臣)において、本博覧会のポスターの掲示や紹介動画の放映、英語版概要パンフレットの配布等を行い、『GREEN×EXPO 2027』のPRを実施
- 国際会議におけるPRや在外公館への招請活動を継続
- 越川政府委員が在京大使館を積極的に訪問し（７月末日現在で５７か国）、在京大使に対して参加招請を行うとともに、在外公館においても本国政府に対して働きかけ中
- 博覧会協会の公式SNSにて、活動状況を随時発信

外務大臣会合（軽井沢町）
令和5年４月16日～18日

農業大臣会合（宮崎市）
令和5年４月22日～23日

都市大臣会合（高松市）
令和5年７月７日～９日

駐日英国大使館訪問（令和5年7月18日）

PALM10レセプション会場でのPR（令和６年7月16日）

越川政府委員による駐日タイ大使館訪問（令和６年６月27日）

【国内】公式アンバサダーの就任・共創キックオフミーティングの開催

- 令和５年９月19日に記者発表会を開催し、俳優：芦田愛菜さんの公式アンバサダー就任を発表（TVや新聞など46媒体61名が出席）。
- 同年９月26日には、博覧会協会が横浜市及び横浜商工会議所と共催で「共創キックオフ・ミーティング」を開催。本博覧会の目指すビジョンや共創の姿を共有するとともに、出展・協賛等に関するメニューについて説明し、企業・団体等に参画呼びかけを実施。（企業、自治体、花・みどり団体等650名を超える方が出席）

公式アンバサダー

登壇者一覧　※敬称略・写真左から
- ■涌井 史郎（ GREEN×EXPOラボ チェアパーソン ）
- ■十倉 雅和（博覧会協会会長・一般社団法人日本経済団体連合会 会長）
- ■芦田 愛菜（公式アンバサダー・俳優）
- ■山中 竹春（副会長・横浜市長）

共創キックオフミーティング

■次第

■関係機関挨拶（敬称略）
- ・国土交通省：堂故副大臣
- ・農林水産省：舞立政務官
- ・経済産業省：石井政務官
- ・神奈川県　：黒岩知事

堂故国交副大臣

【国内】共創フォーラム@東京（開幕3年前イベント）

開催3年前を迎え、企業・団体等との共創により実現を目指す「幸せを創る明日の風景」の姿や、公募を開始する「Village出展」等の詳細をはじめ、企業・団体等による参画についての多様なメニューを共有するフォーラムを、東京にて開催。

当日は、横浜市役所においても、主に横浜市内の企業・団体を対象に、東京会場の中継や出展等のご参画の呼びかけを行う『共創フォーラム@横浜』を同時開催。

開催日時	2024年3月19日（火） 15:10～16:40	会　場	イイノホール＆カンファレンスセンター（千代田区内幸町）
プログラム		参加者	約450人 （横浜会場：約140人）

- **主催者挨拶**　博覧会協会　十倉会長（ビデオメッセージ）
- **関係機関挨拶**　国土交通省、農林水産省、経済産業省、神奈川県、横浜市
- **共創トーク（対談）**
  GREEN×EXPOラボチェアパーソン　涌井 史郎 氏
  公式アンバサダー　芦田 愛菜 氏
- **出展や協賛等の募集に関する説明**　博覧会協会事務局
- **閉会挨拶**　博覧会協会　河村事務総長

関係機関挨拶
斉藤国土交通大臣、舞立農林水産大臣政務官、上月経済産業副大臣、山中横浜市長、黒岩神奈川県知事

【国内】公式マスコットキャラクター発表会（2024年3月19日）

公式マスコットキャラクターのデザインを発表するとともに、名前募集を開始。

基本デザイン

制作意図

世界はいま、自然破壊・環境汚染など様々な課題を抱えているが、私たちのいのちは、この豊かな自然があってこそ。自然は自分たちのメッセージを直接伝えることが出来ないが、このキャラクターが自然の代弁者、私たちとのコミュニケーターとなり、より自然との距離を感覚的に縮めてくれる存在である。自然たちの感情がより分かりやすく伝えられるように、核はハートの形をしている。このキャラクターは地球そのものであり、八百万の生命に溢れている。

特徴・プロフィール

私たちが生きている地球のような姿のこのキャラクター。地球上に生きるすべての植物、生きもののちからを感じとって、その有り様を私たち人間に伝えてくれる存在（精霊）なのです。地球が綺麗だと嬉しくなって花を咲かせたり踊ったりし、汚れると悲しくなって元気がなくなったりします。突然私たちの前に現れたこのキャラクターは、最初は警戒しつつも人間にとても興味を持っています。このキャラクターを通して、私たちが今まで知り得なかった自然の「きもち」を私たちは知ることができるかもしれません。私たちと自然の新たな関係を育むチャンスとなるキャラクターです。

3月19日「開催3年前記者発表会」

アンバサダー・芦田愛菜さんと作品作者・牧野惇さん

【国内】公式マスコットキャラクターの名称決定

うれしーい！

一般公募6,076件の中から選ばれた名前は

「 トゥンクトゥンク 」

○ 名前募集について
・2024年3月19日(火)～4月8日(月)
で一般公募
・応募件数は6,076件
・2024年6月22日(土)に決定・公表

○ 公式マスコットキャラクターについて
「人と地球の自然との新たな関係を育む
コミュニケーター」として、機運醸成に活躍

【国内】1000日前イベント（2024年6月22日（土）～23日（日））

- 開催1000日前という節目を迎え、一人ひとりが多様に参加・参画し、ともに創り上げる園芸博覧会を目指していく「GREEN×EXPO 2027開催1000日前イベント」を実施。
- 横浜・みなとみらい21地区の3つの会場にて、環境との共生という世界的課題をグリーンの力で切り開き、持続していくために活動している個人や団体によるワークショップやステージイベント、展示などのプログラムを実施。
- イベント期間中は、ラッピングバス、公式マスコットキャラクター「トゥンクトゥンク」をモチーフにした街なか装飾や大観覧車（コスモクロック21）特別ライトアップを実施する等、開催1000日前の祝祭感を演出。

•場　　所：みなとみらい21地区、JR桜木町駅前広場、
　　ランドマークプラザ
• 来場者数：約3万人
• 主　　催：公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会、
• 共　　催：横浜市

【国内】出展・参加メニュー

- 多様な主体が、さまざまな形で国際園芸博覧会に関わることができる。
- 現在、国・県・市・博覧会協会において、自治体、民間企業等に参加招請を行っている。

出展

花・緑出展

園芸品種や庭園など
花き園芸や造園技術を表現

Village出展

Villageコンセプトに沿って
各企業等のビジョンや
テクノロジーを表現

その他の参加

営業参加

- テーマ営業出店
- 一般営業出店
- 場内輸送
  モビリティ運営
- 観覧施設運営

催事参加

- 一般催事参加
- テーマ催事参加

海外出展協力

協賛

展示や出展への協賛

- 協会展示協賛
  （テーマ館・展示園）
- Village協賛

施設協賛・運営協賛

- 社会実験
- 植物・現物・役務等
  の提供

催事協賛

- 協会主催催事
  協賛

広報協賛

- タイアップ
- 媒体枠等の提供

寄附金・人材支援

寄附金

人材支援